

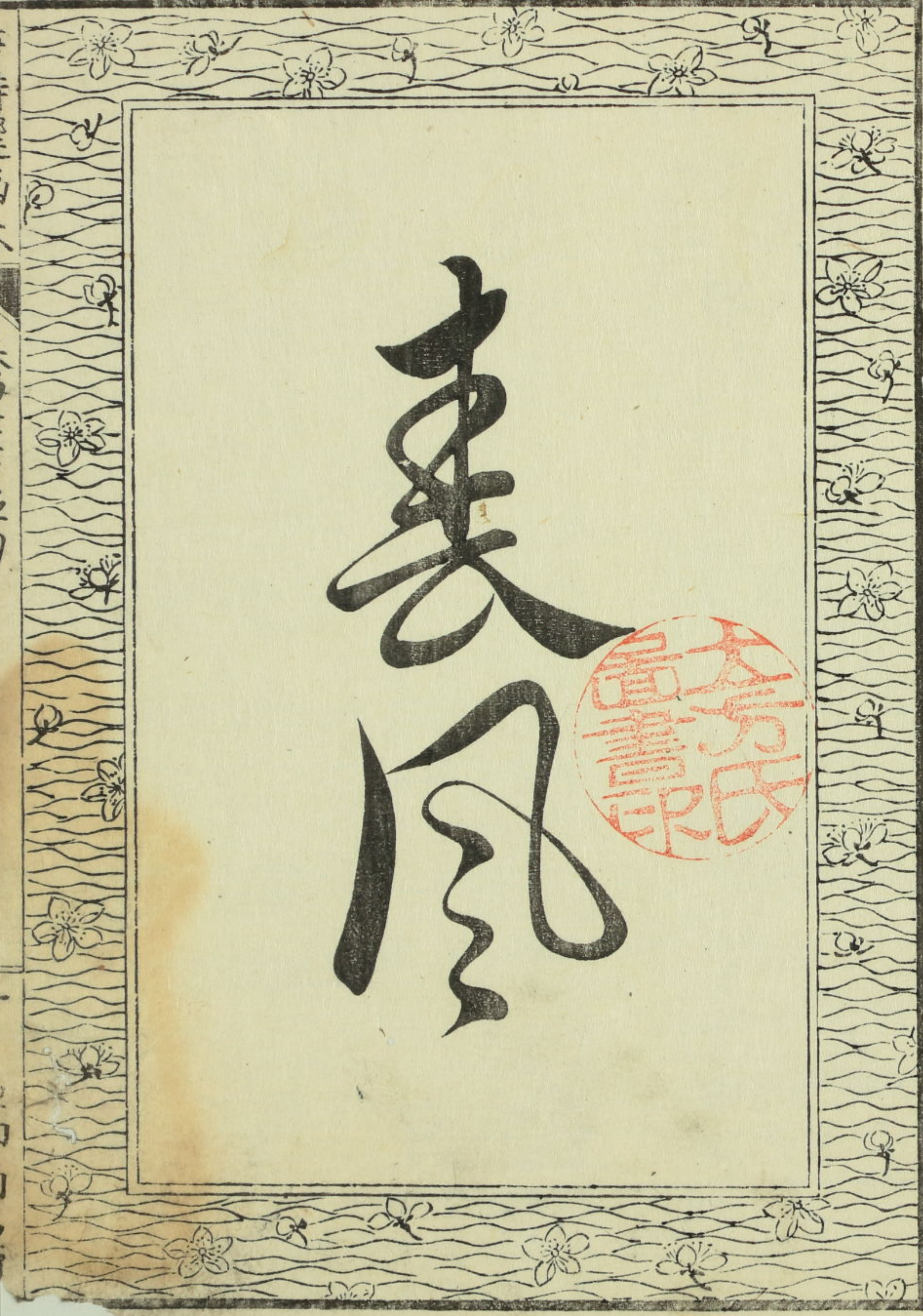
唐詩選畫八

七言絕句

四



書法釋義



疾風



8



春思  
春思  
春思



春風不為吹愁去 春日偏能惹恨長  
 柳色黃 桃花歷亂李花香  
 春思  
 賈至

春思

賈至

紅粉當壚弱柳垂金花臘酒解酴醿  
笙歌日暮能留客醉殺長安輕薄兒

其二



この人のいよさらけのうりものをのりにあらて柳たしむせいいたれまけつてある。んつろのまけのえにきん六  
のらむやあなきん六いさけのまどびの中たな名たういさけとかえやでのむもこのやうなまけにまてのまも  
いよさらけのまどびの中たな名たういさけとかえやでのむもこのやうなまけにまてのまも  
ゆけいよさらけのまどびの中たな名たういさけとかえやでのむもこのやうなまけにまてのまも

西亭春望

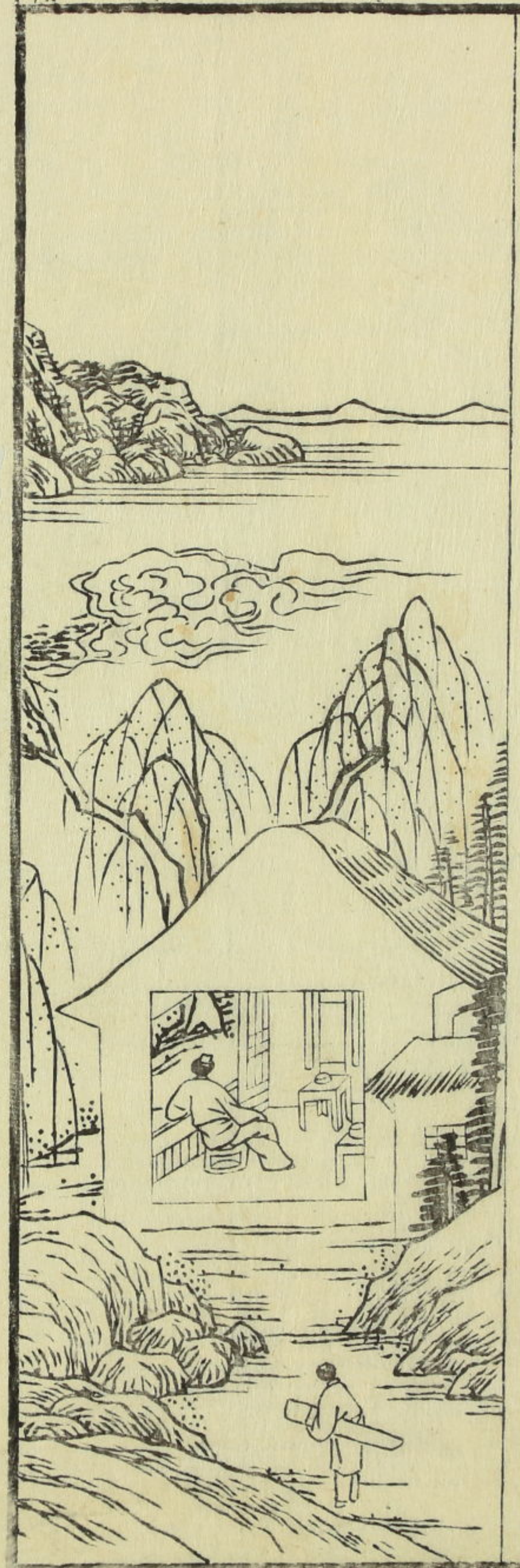
賈至

日長風暖柳青青

北雁歸飛入窅冥

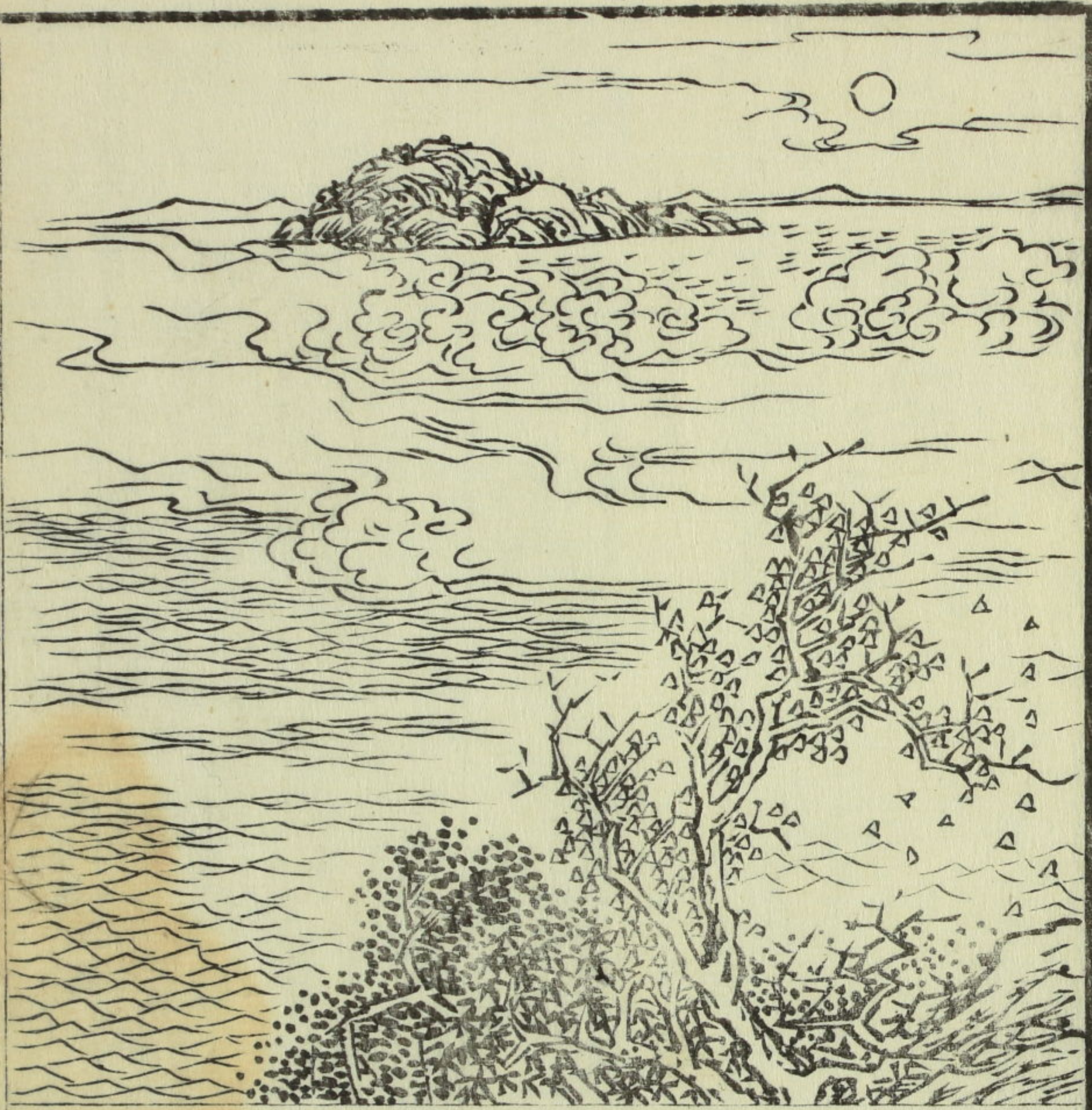
岳陽城上聞吹笛 能使春心滿洞庭

この春心のちにはなほややくめである左遷のまも春とつみかきしむるもこりあるたふさくつらあふ笛とさけいられいとひきおしとるかとんするふちで海河をこころかもうれいなる





初至巴陵與李  
十二白同泛洞  
庭湖 賈至  
楓岸紛紛落  
葉多洞庭秋  
水晚來波  
乘興輕舟  
無  
明月吊湘娥



南國のそらやうあそりく  
させんせし身てきさうり  
。楓岸紛紛を 楚辞の  
字なりあまのあそりく  
さうのさみりなもあそり  
ちりみりさのさあそり  
さみりなり水の面をな  
が秋風がやめくもあそり  
なふとけふ 屈平がこあそり  
るる  
左遷の身なれは 文とまに  
んあそりくを 屈平と 同  
境界トヤ  
舟にのりて 洞庭のさあそり  
もたうのりさうりて  
やうにさうりてさうり居  
たは 白雲のそれとあそり  
の秋をがう 湘君のひやう  
とさあそりいそあそり  
さうりハ 國字録ニ

送李侍郎赴常列

雪晴雲散北風寒

楚水吳山道路難

今日送君須盡醉

明朝相憶路漫漫

賈至

冬之見之てまよひをきつるれ中もまよひ  
まよひのまよひまよひをきつるれ中もまよひ  
まよひのまよひまよひをきつるれ中もまよひ  
まよひのまよひまよひをきつるれ中もまよひ  
まよひのまよひまよひをきつるれ中もまよひ  
まよひのまよひまよひをきつるれ中もまよひ  
まよひのまよひまよひをきつるれ中もまよひ  
まよひのまよひまよひをきつるれ中もまよひ



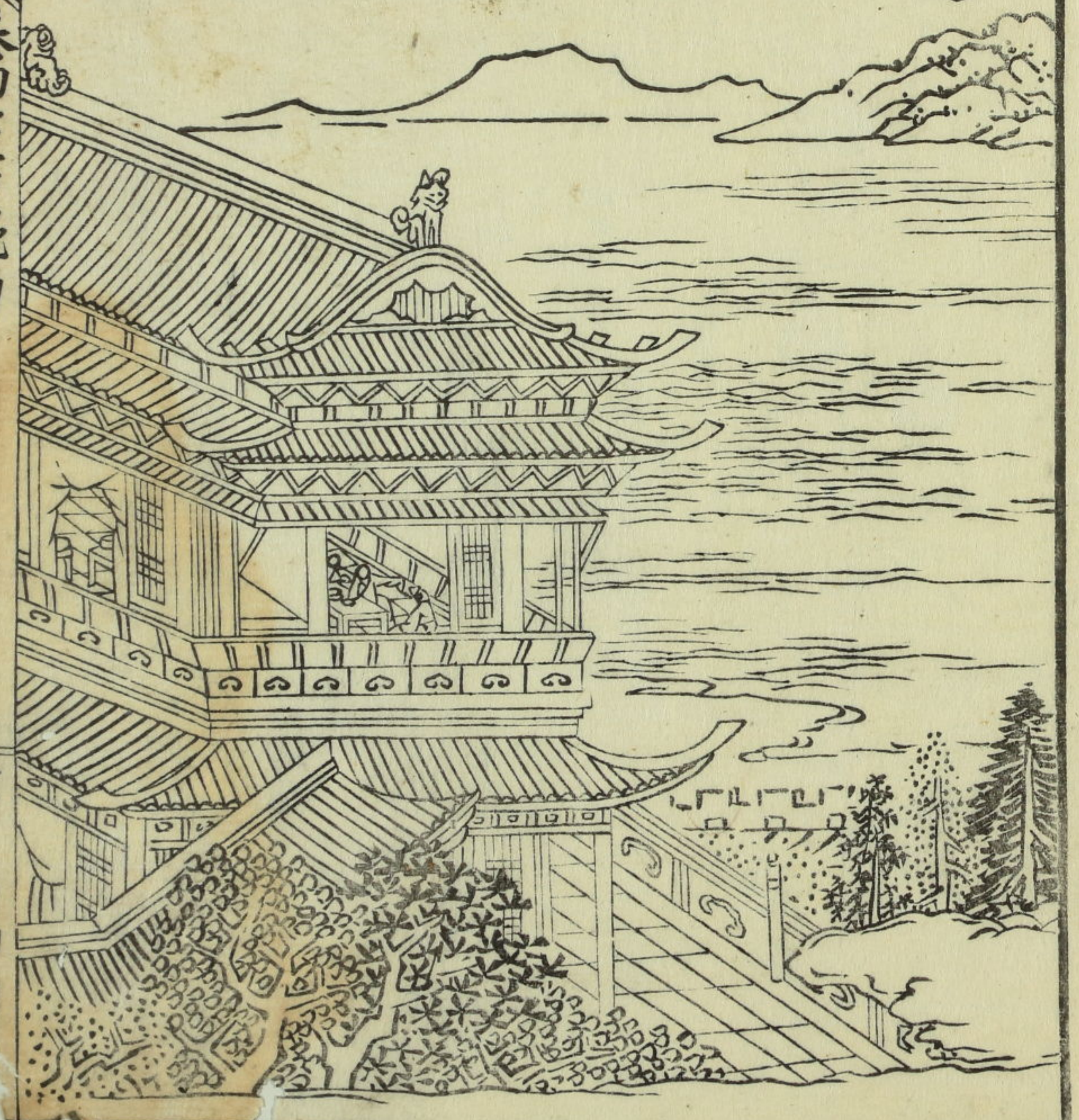
胡濟野  
雪晴雲散北風寒  
楚水吳山道路難  
今日送君須盡醉  
明朝相憶路漫漫  
賈至

かくやうろふ西北のうらやましきなり。このみちのむすぶかやうろふのありけり。ハ  
まきみちとや。とうていこのまのなほはあつたなまがやうろふありける。この  
こすのやうろふひのうらやましきなり。まきみちやうろふありける。この  
まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。  
まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。  
まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。  
まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。  
まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。  
まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。まきみちのやうろふありける。

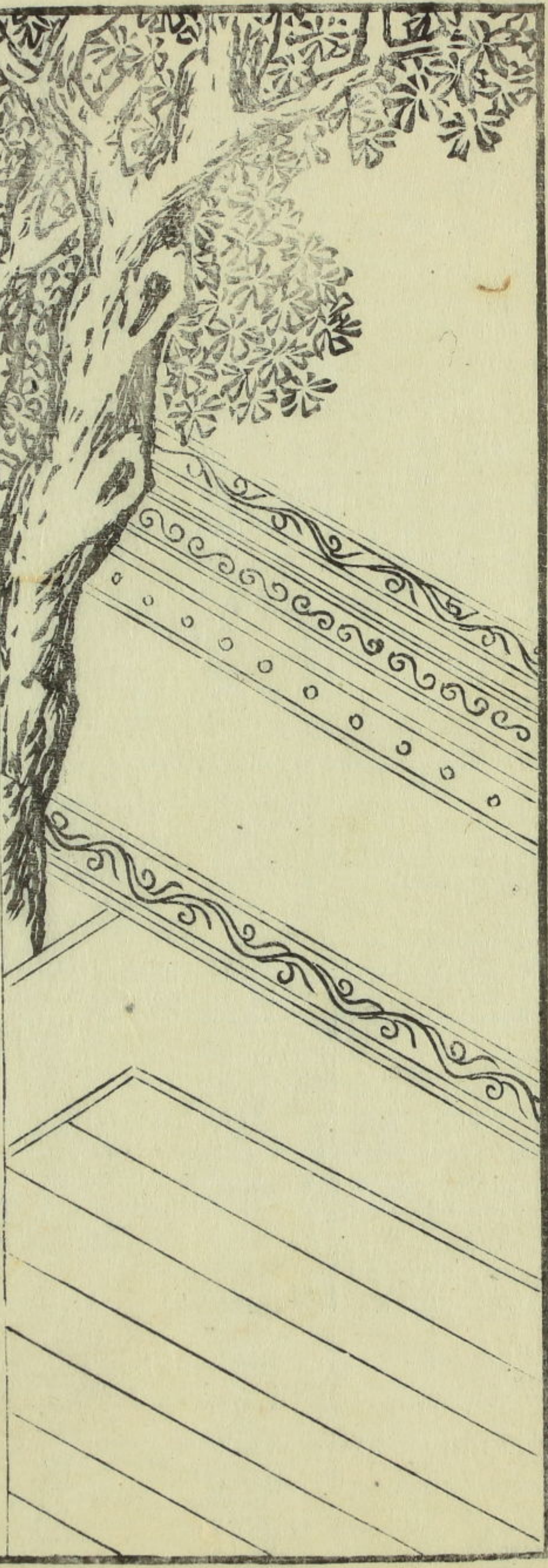


岳陽樓  
重宴別  
王八員  
外貶長  
沙  
賈至

江路東連  
千里湖  
青雲北望  
紫微遙  
莫道巴陵  
湖水闊  
長沙南畔  
更蕭條







封大夫破播仙凱歌二首

岑參

漢將承恩西破我捷書先奏未央宮天子預開麟閣待

今誰歎貳師功

漢將承恩西破我捷書先奏未央宮天子預開麟閣待今誰歎貳師功

漢將承恩西破我捷書先奏未央宮天子預開麟閣待今誰歎貳師功

其二

日落轅門鼓角鳴  
千羣面縛出蕃城  
洗兵巢海雲迎  
凍秣馬龍堆月照營

ひちちてあんにん。こかくたる。せんぐんめんもくあて。ちんぐうをりづへいとあづ  
つてきよまかい。くろちんをむく。むまにまきさかあて。りやうい。しきあひ  
ちんぐう。

あんにんちんやのちんちり。ひられあんにんかいぢんと。たいことうりてあつ。あひまのこ  
のこうさんのこのちん。てまんでなまををり。ぢんぐうよりひきいさされてる。  
。こんにちめぢんぐうあひあつ。まきさかあて。雪霜がこつちのぢんと。むくま  
にして。ちんぐうつてきよまかい。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。  
あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。  
月があひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。あひまを。



唐詩選画本 卷四七言絶句 其二 嵩山

首蓓烽寄家人

岑参

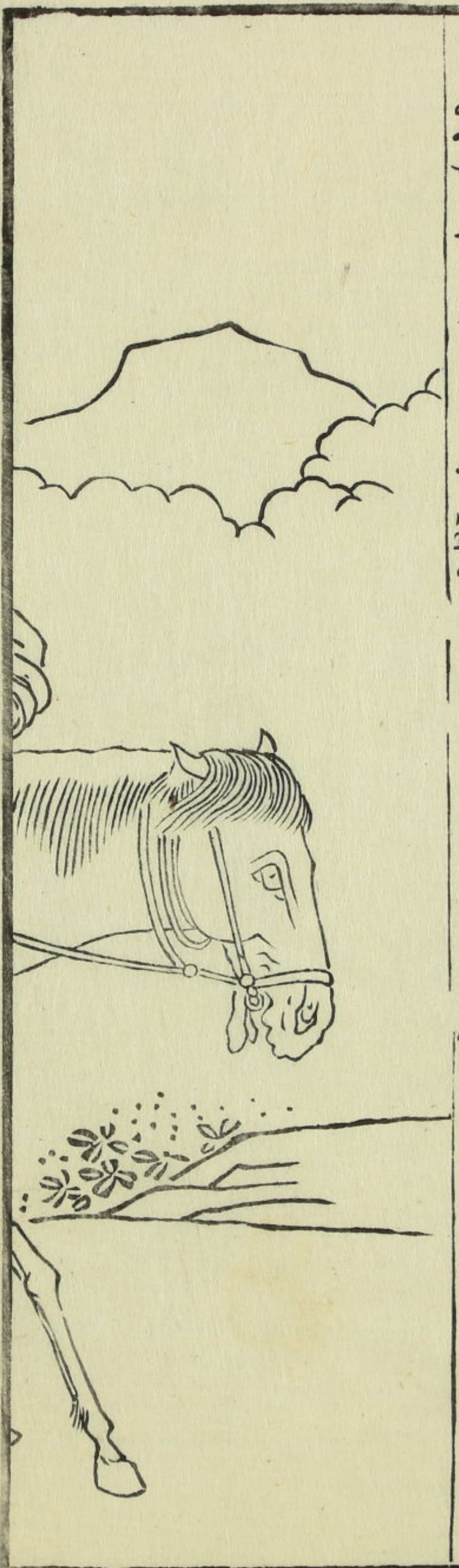
首蓓烽邊逢立春，胡蘆河上淚沾巾。  
聞中只是空相憶，不見沙場愁殺人。

又云のとうちうでなるのけいまつにならり。ちやなるにあらかかして。きう抄人のあり  
ハ。さいしふと。さいまにいざうとありあり。さいまのめつとありあり。かかりかた。なまの  
まもをいけいちうで。さいめつとありあり。ちやなるにあらかかして。きう抄人のあり  
かかりの。たびのうれいと。ふきの。たぶが。い。は。ちや。お。よ。の。あり。さ。る。と。ま。ご。め  
あ。た。た。も。あ。の。ふ。ま。い。ご。さ。な。り。な。ま。と。か。か。り。か。か。り。か。か。り。





唐詩選画ノ  
卷四ノ詩集ノ



玉關寄長安李主簿  
 岑參  
 東去長安萬里餘  
 故人那惜一行書  
 玉關西望腸堪斷  
 况復明朝是歲除

玉關、長安、萬里、餘、故人、那、惜、一行、書、玉、關、西、望、腸、堪、斷、况、復、明、朝、是、歲、除。

玉關、長安、萬里、餘、故人、那、惜、一行、書、玉、關、西、望、腸、堪、斷、况、復、明、朝、是、歲、除。

玉關、長安、萬里、餘、故人、那、惜、一行、書、玉、關、西、望、腸、堪、斷、况、復、明、朝、是、歲、除。

逢入京使

岑参

故園東望路漫漫，雙袖龍鐘淚不乾。  
 馬上相逢無紙筆，憑君傳語報平安。



磧中作

走馬西來欲

到天

辭家見月兩

回圓

今夜不知何

處宿

平沙萬里絕

人烟

内用也すいぶんいそいでむまをそ  
らよめてのれれがそいにくくて  
てんへのややうないをとぢいて  
このどうちうへ出てかた。十五日と  
二とあつてあふつきにたる  
とこにとあうふやら

平沙

とこに淡たのむへき

あつて

ころろがまのこいあつて



魏州後亭送李判官使赴晉絳得秋字 岑參  
西原驛路掛城頭 客散江亭雨未休 君去試  
看汾水上白雲 猶似漢時秋



後亭とハ  
西原の城より  
海道のありて  
客もみなかたりさい



なるまて雨もやまず  
海道のありて  
客もみなかたりさい  
あつてもあるま  
白雲をかりハ  
客もみなかたりさい  
あつてもあるま  
白雲をかりハ



送人還京  
 一のたきがさる  
 ひりむいて  
 ぬくまのい  
 かに  
 うやこ  
 めむ  
 またて  
 いて  
 そこれ  
 うね  
 るる  
 交河  
 かのり  
 をや  
 なか  
 巴  
 きて

送人還京  
 匹馬西未天外  
 歸揚鞭只共鳥  
 爭飛送君九月  
 交河北雪裡題  
 詩淚滿衣



唐詩選画本



唐詩選本

卷四七言絕句



唐詩選本

卷四七言絕句

十五

赴北庭度隴思家

西向輪臺萬里餘也知鄉信

日應疎隴山鸚鵡能言語為

報家人教寄書 岑參

見れこみとこころゆくににのかけえんこのかきとをれにんまよまをのるふじやこころ  
さくたうらぐふいにいよくまきる 隴山 鸚鵡 能 言語 為  
なるまき。ろくさんあそりハちむのあるところどやハれかハ状文のたふりのをい  
知どやとあふか。こまやうのさいハ状とちをとりあてられたふの十のまの  
いとりあふでハとくぬいとたふのたふいとこらじや。あふひのま  
を強むもあつてそんで名ふりるハちいさくハ國言辭とをえ

